

技能評価システム移転促進事業(SESPP)は日本式技能評価のノウハウを移転するため、ベトナム、カンボジア、インドネシアを対象に日本の専門家によるセミナーや技能評価トライアルを実施しています。事業の運営事務局を株式会社 J T B 霞が関事業部にて受託しております。日本式の技能評価の活用促進が図れるよう、J-Skills Newsでは、事業の取組などをお知らせしています。(年3回発行)

□研修レポート

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、本年度も日本の専門家と現地をオンラインで結んでのリモート研修を実施しております。本号では、カンボジアの配電盤制御盤組立て作業、ベトナムの国家技能検定旋盤レベル3、機械検査2級について報告します。

■カンボジアにおける配電盤制御盤組立て作業2級の技能評価者講習

カンボジアでは2018年度まで配電盤制御盤組立て作業3級研修を実施し、5名の認定評価者が誕生しております。

本年度は配電盤制御盤組立て作業の更なるレベルアップを目指して、2021年10月18日(月)～22日(金)に2級の技能評価者講習が産業技術大学(ITI)と日本を結んでのリモートにより実施されました。

講師は3級を担当いただいた萩生田幸男氏(東芝インフラ機器テクノロジー株式会社※)にご協力いただきました。

受講者は8名で全員3級修了者でした。

研修内容は、『SESPP事業説明』に続き、2級の『実技試験問題解説』、『作業手順書説明』、『実技試験実施要領説明』、『実技採点基準説明』、『実技採点要領説明』、『採点方法説明』、『評価者チェックシート説明』で、日本とITIに両方2級の実技試験課題の完成品を用意し、3級との相違点を詳細に説明することから開始されました。

講師の萩生田氏からは、「3年ぶりの研修実施であったが、受講者全員が3級技能評価者講習修了者ということもあり、リモートの環境ながら研修内容は良く理解されたと認識している。」との講評をいただきました。

※所属先は講習実施時のもの



日本側講師による講義の風景



現地研修風景



現地研修風景

■ベトナムにおける国家技能検定旋盤レベル3(日本の技能検定2級相当)

旋盤作業はSESPP等の支援により、2018年よりベトナムの国家技能検定として実施されています。

ベトナムの国家技能検定が準備、実施及び採点評価の段階においてどのように運営されているか、どのような試験問題(学科・実技)、採点要領等が採用されているか、実情を把握することを目的として、今回初の試みで、国家技能検定を本事業として支援いたしました。

本研修は2021年11月22日(月)～26日(金)にかけて、ハノイ工業職業短大(HIVC)にて実施されました。初日は準備、2日目から3日間は国家技能検定、最終日は総括会議及び資料類の取りまとめ・報告書の作成というスケジュールで実施されました。

評価者は3名、受検者は9名で内4名が合格しました。

稲川文夫氏(SESPP事務局技術顧問)からは、以下の講評が有りました。

①評価者について

- ・SESPPでの研修を通して習得した試験のやり方を適切に適用していたことに感心した。
- ・採点作業では、ダブルチェックのやり方や重要性を理解して実施していたことは高く評価できる。

②実技試験の課題と作業時間について

- ・旋盤レベル3の実技試験課題は、日本の2級の課題をベトナムの実状に合わせて修整し、作成した課題であるとの説明を受けた。
- ・作業時間は、標準時間3時間、打ち切り時間3時間30分で、課題の難易度を考慮すると妥当な作業時間と言える。受検者9人中8人が打ち切り時間内に製品を完成させており、そのうち4人が合格点に達していることは、課題の難易度に対して作業時間が妥当であることを証明していると言える。

③試験の合格率について

- ・日本の技能検定2級の合格率は25～35%で、企業等から資格としての価値が評価されている。今回の試験結果を見ると、学科試験の合格率は100%で、問題が易しすぎるように思う。試験結果を分析して試験問題の見直しが必要と言える。
- ・一方、実技試験は合格率44%で、最初の試験結果としては妥当な範囲であると言える。
- ・合格率が異常に高い資格は、価値がないものと判断されて、企業等からの評価も低く、受検者の拡大普及につながらない。日本の技能検定の合格率は、特級：15～25%、1級：20～30%、2級：25～35%、3級：50～65%程度である。このことによって資格の価値を維持し、企業等から評価されている。ベトナムにおいても、評価センターからフィードバックされる情報や試験結果を分析することによって、適切な合格率を維持するために絶えず試験問題を見直す努力を続けてもらいたい。

※なお、上記の所見は監督者チーム、評価者チーム、技術サポートスタッフによる総括会議の場で専門家の感想・コメントとして述べたもので、総括会議の議長から日本の専門家による意見としてDVETへ報告することが示され、了承された。



日本側講師による講義の風景



現地技能検定風景(学科試験)



現地技能検定風景(実技試験)

■ ベトナムにおける機械検査2級の技能評価者講習

2022年1月10日(月)～14(金)にかけてハノイ工業職業短大(HIVC)において、機械検査2級の技能評価者講習が初めて実施されました。

機械検査2級は、精密測定に関する知識と技能が要求される職種で、ものづくりに係わる日系企業から多くの従業員が受検する人気の高い職種です。

本研修は前半3日間で「製作等作業試験」、後半2日間は「計画立案等作業試験」の実施方法の講習が行われ、オンライン1名を含む16名が受講しました。

稲川文夫氏(SESPP事務局技術顧問)からは、以下の講評が有りました。

①測定部品の精度について

・作業1で使用使用する測定部品については、精度が悪く使えない箇所が見受けられた。

ハイトゲージで測定する箇所の平行度は、0.01mm以内にする、シリンダーゲージで測定する箇所は、使用するリングゲージの寸法の ± 0.2 mm以内に制作するように指示した。

機械検査作業の狙いは、精密測定の技能を評価することにあるので、使用する部品の精度、測定器の器差、部屋の温度管理等に十分留意して作業を進めることが重要であることを説明し、精密測定作業に対する受講者の意識改革を促した。

②オンライン研修での測定作業の検証について

・ハイトゲージによる測定及び歯厚マイクロメータによるまたぎ歯厚の測定は、機械検査3級では実施しない作業で、2級で初めて実施する作業である。

オンライン講習では、受講者が正しいやり方で行っているのか細部にわたって確認することが難しかった。したがって、技能評価トライアル(SET)を開始する際に、現場で実際に彼等のやり方を確認した上で進める必要があると感じた。

③受講者の解法能力について

・計画立案等作業試験の問題(50点満点)は、ピタゴラスの定義、三角関数の公式を使いこなして解く問題で、幾何数学の解法能力が求められる。

受講者の中には45点以上の者が2名おり、レベルの高さに感心した。

受講者の中には、正解表で示されたやり方(直角三角形を作って、それに三角関数適用して解く方法)ではなく、正接の公式と2次方程式を使って解答した者がおり、見事な解き方であった。このような独創的な解き方についても、留意して採点することが大切であることを受講者全員で共有した。

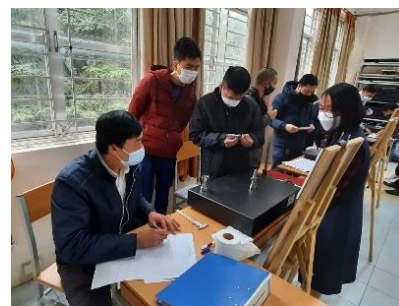
また、受講者からは、「プログラムの内容がとても良く出来ている」、「評価者として認定されるまで、複数年に分けるのではなく、1年間で連続的に受講させて欲しい」、「日本で受講したい」等の意見が寄せられました。



日本側講師による講義の風景



現地研修風景



現地研修風景

■2020年度(令和二年度)日本の技能検定実施状況について

2020年度は71.6万人が受検し、うち29.9万人が合格して「技能士」の称号を手に入れました。創設当初からの合格者の累計は7,637,348人にのびます。新型コロナウイルス感染症の影響により、前期試験を中止したことで前年度と比較して受検申請者数・合格者数共に18%弱の減少となりました。2020年度を等級別にみると受検者が最も多かった等級は2級でした。職種別に見ると受検者が最も多かった職種は、ファイナンシャル・プランニングで、以下、機械保全、とび、機械検査、機械加工、と続いています。

◆等級別の実施状況

等級 (技能検定の合格に必要な技能及び知識)	受検申請者数 (前年度比)	合格者数 (前年度比)	合格率 (前年度)
特級 (管理者又は監督者に必要な技能及び知識)	4,534人 (-7.5%)	960人 (+43.3%)	21.2% (13.7%)
1級 (上級の技能労働者に必要な技能及び知識)	61,087人 (-36.5%)	14,664人 (-50.7%)	24.0% (30.9%)
2級 (中級の技能労働者に必要な技能及び知識)	272,778人 (-17.0%)	78,757人 (-15.3%)	28.9% (28.3%)
3級 (初級の技能労働者に必要な技能及び知識)	225,948人 (-19.2%)	120,307人 (-9.7%)	53.2% (47.6%)
単一等級 (等級に区分していない職種で、1級相当の技能及び知識)	1,095人 (-61.1%)	493人 (-67.7%)	45.0% (54.1%)
合計	565,442人	215,181人	—

※上記に加え、技能実習生を対象とした検定が有り(基礎級、随時3級、随時2級)、2020年度は150,758人が受検し、84,378人が合格しています。

◆受検申請者数の多い職種(全等級合計)

職種名	受検申請者数	前年度比	合格者数	前年度比
ファイナンシャル・プランニング	435,424人	-8.3%	152,115人	+6.5%
機械保全	25,744人	-33.5%	8,551人	-46.0%
とび	16,408人	-10.0%	10,172人	-14.5%
機械検査	15,216人	-21.8%	8,540人	-27.1%
機械加工	15,079人	-43.3%	8,413人	-47.9%

(参考)厚生労働省報道発表資料 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_19883.html

発行：SESPP事務局(株式会社JTB 霞が関事業部)

『J-Skills News』に関するお問合せ

SESPP事務局(株式会社JTB 霞が関事業部)

〒100-6051 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビルディング23階
 TEL : +81-3-6737-9261 FAX : +81-3-6737-9266
 担当：近藤・横山・岩下・岩城
 E-mail : sespp@jtb.com